

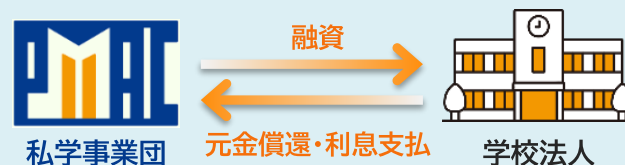


日本私立学校振興・共済事業団(私学事業団)とは

- 私立学校に対する補助・貸付等の助成業務や私立学校の教職員の共済制度を運営する共済組合類型の特殊法人。
- 私立学校への支援(助成業務)と教職員への福利厚生(共済業務)を一体的・総合的に実施することにより、効率的・効果的に私学振興を推進。

私学事業団の融資業務について

私立学校の教育条件の維持・向上及び私立学校経営の安定化を目的として、私立学校の施設設備の整備等に要する貸付事業を実施している。



融資対象

学校法人
専修学校又は各種学校の設置のみを目的とする法人(私立学校法第152条第5項の法人)
幼保連携型認定こども園を設置する社会福祉法人

融資対象事業

校舎・園舎等の建築・改築、グラウンド等の造成、実験・実習機器や通学バス等の整備、教育環境充実のための経営資金、施設の取壊しに要する資金 等

特徴

長期、
低利・固定金利
(返済期間:最長30年)



利息負担が少ない
元金均等返済



返済完了までの
フォロー体制あり



利益金の一部を
私学のために還元



一部事業において、
国の利子助成制度
の適用あり



多くの私立学校においては、私学事業団からの融資をうまく活用して様々なニーズに速やかに対応し、教育環境の魅力を高めている。

教育環境の魅力を高める私立学校に対する融資の活用について

事例 1

大学名

酪農学園大学(北海道江別市)

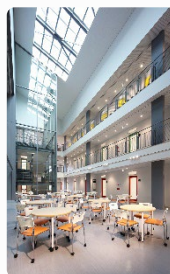
融資を活用した事業内容

多目的体育施設の新築事業



事業のコンセプトや工夫

- 体育授業、課外活動、合宿、各種イベントといった多目的に使える複合施設として計画。
- より自然光を多く取り入れられるよう、吹き抜け空間を大きくし、明るく開放的なアクティブスペース(自由スペース)を設置。
- 吹奏楽部の練習場、パート練習室、楽器庫を地下に設置。
- 合宿室の間仕切りを一部移動式とし、使い方に応じて室サイズを可変
- 授業用クライミングウォールや全フロアに多目的トイレを設置。



事業による効果

📍 利便性向上

体育教員用の部屋からテニスコート、グラウンドを一望できるように

📍 多目的利用

多数のロッカーやシャワー室完備の広い更衣室により大会開催等が可能に

📍 イベント開催

女性用トイレ数を多くしたことで、大人数イベントが開催しやすく

事業後の活用状況

課外活動(部室、合宿)や学内健康診断での使用、宿泊を伴う外部イベントでの使用、ドローン講習での使用。



事例 2

大学名

弘前学院大学(青森県弘前市)

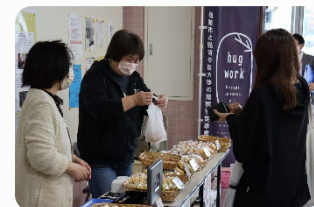
融資を活用した事業内容

大学校舎(既存1号館)の耐震改築事業



事業のコンセプトや工夫

- 「もったいない精神」、「物を大事にする」観点から、旧校舎で使用していた機器や備品を含めて、同じ機能をそのまま新校舎に移し、使用。
- グループ討議等において利便性や教育効果を高めるために、講義室に一人用の学習机、椅子を設置。
- 敷地の有効利用を図るために回廊型の校舎とし、中庭を設けて大学行事等で活用。



事業による効果

📍 教育環境の充実

学生ラウンジ(ラーニングコモンズ)の設置により、講義、自習、休憩の場として多目的な利用が可能に

📍 バリアフリー化

多目的トイレの設置、エレベーター設置により施設をバリアフリー化

事業後の活用状況

- 学会や研究会、オープンキャンパスの模擬講義や保護者の入試控室などの場として活用。
- 弘前市と連携協定を締結し、学生ラウンジを活用して、障がい者就労支援事業所で製造した商品の販売、多世代交流カフェ、保健科学研究会等のイベントを実施。

事例 3

大学名

成安造形大学(滋賀県大津市)

融資を活用した事業内容

学外者も利用可能な地域交流の場となる多目的スペースを含めた校舎敷地及びグラウンド買収事業

事業のコンセプトや工夫

- 校地の取得により教育事業の自由度を高め、当該校地において展開している地域社会と融合した大学運営をより高度化。
- コミュニティスペース「結(ゆい)」を設置し、食とアートを通じたつながりの場として運用。

事業による効果

🔦 地域住民との接点増

カフェ、パン工房のオープンにより地域住民との接点が増加

🔦 新たな活動が始動

学生有志による大学と地域の交流を育むことを目指したプロジェクト「YUI Lab(ゆいらぼ)」やアートエリアなどが始動

事業後の活用状況

大学と地域の交流活動拠点、アートエリアにおける作品展示・展覧会イベントの実施、産官学連携事業の実施・成果発表の実施、地域住民や学外来客者との交流の場として使用



事例 4

大学名

熊本学園大学(熊本県熊本市)

融資を活用した事業内容

学修空間(スチューデントcommons)を備えたユニバーサルデザイン・バリアフリーの新校舎建築事業

事業のコンセプトや工夫

- 仲間たちと自由に課題や議論に取り組むことができるエリアを目指し、学生の主体的で自律的な学びを支援する学修空間を設置。(机や椅子を移動することが可能なグループ学修エリア・個人学習エリアや、ホワイトボードとスクリーンの機能を併せ持つ壁面を採用したアクティブラーニングルーム。)
- 熊本地震から学び、避難の際に車椅子等の利用者もゆとりをもって通行できる廊下・階段幅を確保し、災害時の避難路として屋外スロープを設置。
- トイレを車椅子での利用を容易にできるよう設計し、多目的トイレも各階に設置。

事業による効果

🔦 需要にマッチした学修空間

学修空間は目的を持った学生に広く活用され、特に個人学修エリアは利用頻度が高く、学生のニーズにマッチした空間に

🔦 基礎学力向上

学修空間付近に教育センターを配置し、学生が訪れやすい環境を整備

事業後の活用状況

イングリッシュラウンジにおけるグローバルな交流の実施、地域との包括連携事業や産学官連携事業による子ども食堂・共同開発品試作、採用試験・説明会や各種学会の開催場所として使用。

